第7回　甲田地区小学校統合準備委員会　要点録

開催日時：平成 27 年 1 月 13 日（火）午後 6 時 30 時～7 時
開催場所：甲田支所（2 階会議室）

参加状況	■委員会委員（敬称略） ◎豊原　稔和　　甲立小学校区内の振興会代表（委員長） 明木　一悦（欠席）　小田小学校区内の振興会代表 今村　佳岳　　小田東小学校区内の振興会代表 原田　和雄　　甲立小学校保護者会の代表 田邊　介三　　甲立小学校保護者会の代表 足助　智恵　　小田小学校保護者会の代表 ○新田　敦宏　　小田小学校保護者会の代表（副委員長） 岩田　幸雄（欠席）　小田東小学校保護者会の代表 岩谷　典亮　　小田東小学校保護者会の代表 秋岡　賢慶　　甲立保育所保護者会の代表 若佐　久美子（欠席）小原保育所保護者会の代表 富永　美香　　小田東保育所保護者会の代表 山平　弥生　　甲立小学校の校長 川本　和暁（欠席）　小田小学校の校長 信末　実智則　　小田東小学校の校長 宮本　直彦　　甲田中学校の校長 ■安芸高田市 土井　実貴男　　安芸高田市教育委員会教育総務課長 柳川　知昭　　安芸高田市教育委員会教育総務課学校施設係長 倉田　英治　　安芸高田市教育委員会教育総務課学校施設係専門員
傍聴	３人
会議次第及び資　料	会議次第 １．開　　会 ２．総務部会報告「統合目標年月日について」 ３．協議事項 （１）統合目標年月日について （２）その他 ４．事務連絡 ５．閉　　会
会　議　概　要	
事務局	**1. 開　会** 第 7 回目の甲田地区小学校統合準備委員会を開会致します。本日は明木委員さん、岩田委員さん、若佐委員さん、川本委員さんが欠席でございます。それでは進行の方は、豊原委員長さんのほうでよろしくお願い致します。
委員長	皆さまお疲れさまです。報告事項としまして、総務部会から「統合目標年月日について」の報告をお願いしたいと思います。

部会長	先月、第1回総務部会を開催いたしまして、統合目標年月日について、市から提案を受けました。部会で協議した結果、事務局から提案された統合目標年月日については、大多数の委員さんから「平成28年4月1日に統合することは困難である」との意見が出たことから、統合目標年月日を平成28年4月1日にすることを見送り、引き続き総務部会において統合目標年月日を協議することとなりました。 以上で、報告を終わります。
委員長	ありがとうございました。引き続き、協議事項に移りたいと思います。統合目標年月日について、総務部会の方から、当初統合計画で示された平成28年4月1日の統合については、協議の結果、準備期間が足りないのではということで、先送りが妥当ではないかとの議論になりました。 この件につきまして、部会の報告があったように、推進本部の方へ準備委員会の結論として、統合目標年月日を平成28年4月1日にすることを見送るということでよろしいでしょうか。 （異議なし） 統合年月日の日付につきましては、部会の方で協議をしていただくということで引き続きお願いしたいと思います。 準備委員として何かございませんか。ないようですので、資料の説明をいただきたいと思います。
事務局	お手元に配布をしております資料「安芸高田市の学校規模について答申のポイント」をご覧下さい。答申につきましては、安芸高田市学校規模適正化推進計画におきまして、教育委員会の事務局では、この5年間計画に基づいて学校の統合を進めてきましたが、この計画のより所となる諮問機関からの答申の記述がございます。過小規模校、小規模校の良い点、課題、児童生徒にとって望まれる教育環境といった項目で、全部説明するということにはなりませんが、掻い摘んで説明させていただきます。 この答申の中では、学校規模について学習面、社会面・生活面、クラブ・部活動面、学校運営面という4つの視点で、過小規模校、小規模校のメリット、デメリットがそれぞれまとめられております。そのメリット、デメリットを十分、検討・検証した結果、適正化委員会では、児童生徒にとって望まれる教育環境とは、どういった環境なのかということが結論的に右側にまとめられています。それぞれの視点ごとに、望まれる教育環境のところを少し見ていきたいと思います。 過小規模校等のメリット、デメリットは後ほどご一読いただければと思います。 ◎学習面において、児童生徒にとって望まれる教育環境 学校教育は、本来的に集団を通じて培われるものということ、児童生徒の多様な考えにふれ切磋琢磨する中で、学力はもとより高い人間性や社会性を育成する環境が必要であるということです。教職員の定数は学級数を基に算出されることはご承知だと思いますが、その際に専門性を有する教職員を複数名配置することが可能ということは、学級数が多ければ多いほど、職員の数が多くなりますので、後ほどにも出てきますが、専門性を有する教職員の確保というのが可能になってきます。逆を言えば、小規模校になれば、教職員の確保もままならないというデメリットがあると言えると思います。 ◎社会面・生活面において、児童生徒にとって望まれる教育環境 特に、児童生徒が集団の中で人間関係を固定せず、個の成長に応じた適切な役割や位置づけが行われ、多様な価値観やよい意味での競争心が生まれる環境の中で様々な経験をすることができる環境が、児童生徒にとって望まれると委員会での結論でございます。 ◎クラブ・部活動面において、児童生徒にとって望まれる教育環境 自主活動の選択肢が広がることは一人ひとりの可能性や特性を伸ばすことに繋がる、健康維持、

	体力向上はもとより、学校や集団の帰属意識を高めるとともに学校全体が活性化し生活指導上の効果も高いといった教育環境が児童生徒にとって望まれるということですが、クラブ活動においては、こういった面が期待できるということになっています。 ◎学校運営面において、児童生徒にとって望まれる教育環境 特に、教員を指してのことになりますが、教員同士が学び合い、高め合い、互いの考えを深め合い、実践が交流できる環境を確保できるということ、教師個人の教育力を高めるとともに学校全体の教育力を高めることができる、教員が多ければ多いほど、こういった効果が得られるということになります。特に、中学校においては音楽、美術、体育といった専門の教科の教員を学級数が多ければ確保することができるというメリットがあります。 過小規模校・小規模校のメリット、デメリットを検証した上で、先ほどの 4 つの視点で望まれる教育環境について最終的にまとめがされ、そのことから導かれた結論が備考欄のところに記載してあります。1 学年を複数学級にする、1 学級を 20 名～30 名程度とすることが、児童生徒にとって望まれる教育環境になるといったことで、答申を受けております。 ◎1 学年複数学級について 人間関係の固定化を避け、より多様なかかわりの中で切磋琢磨してお互いが刺激し合える、柔軟な人間性や社会性を育めるよう、また部活動を含めた自主活動でもより広い選択が可能になるような環境を整備しようと思えば、1 学年複数学級が望ましいということです。 ◎1 学級 20 名～30 名程度について 人数につきましては、多様な価値観に触れたり、よい意味での競争心が生まれたりする環境、体育での集団種目、音楽での合唱やブラスバンド等、集団で行うスポーツや文化芸術活動が可能になるように、1 学級が 20 名～30 名程度が望ましいということです。以上の 2 点の答申を踏まえて、策定をされました推進計画が、皆様に 1 回目の会議でお配りした推進計画ということになります。ただ、答申の中には但し書きというのがありまして、今触れました 2 つの項目の下のところになりますが、小学校 12 学級、中学校 6 学級を下回った場合でもある程度の規模が確保できれば、様々な工夫や努力を行い、特色ある学校・教育づくりを推進することが十分、可能であるというふうに考えられます。結局、そのようにならないということが但し書きで述べられております。この間、議論の中でも複式学級のメリット、デメリットを教えてほしいというような意見であったり、小規模校であっても地域のためには学校が必要だから残したいという強い思いを持っていらっしゃる委員さんもおられました。そのあたり、最終的には準備委員会の中で議論して結論を出して頂ければといいと思いますが、但し書きの 2 つ目・地域コミュニティや家庭、教職員等の努力によって支えられている複式学級のある過小規模校を否定するものではないということも答申の中にはありますので、答申の趣旨を踏みながらもいろんなメリット、デメリットを検討して結論を出して頂くという必要があると思います。 一番、最後には・地域別の事情と全市的な観点を比較考慮しながら、慎重かつ現実的に対応していく必要があるというふうなことで、但し書きが 3 点ございますので、十分参考にして頂きながら議論を進めていっていただければと思います。 3 枚目の資料は、複式学級の実態ということで、これはすでにホームページで公表されているたくさんの資料の中の一部でございます。 ◎複式学級のキーワード① 2 つの学年が 1 学級を編制する（1 年生を含む場合 8 名以下、その他学年の場合 16 名以下）

	小田小学校の 24 年度から 30 年度までの見込みですが、小田小学校においては 27 年度から 3・4 年生の複式学級が想定されているという表になります。26 年度の 2・3 年生も 12 名ということで、単式（加配）と記載されていますが、変則複式という名称で説明されていると思いますが、県の加配がついておりまして、現在は単式の編制をしているという状況です。 ④のわたり、ガイド学習、リーダー学習といった言葉がありますが、右の図をご覧下さい。（ ①例 A ）小田小学校が必ずこうなるという意味ではございません。複式学級の一つの教室のレイアウトの例ということでご覧になって頂ければと思います。ここでは、3・4 年生の例で図が示してあります。教員わたりとありますが、一人の教師が 3 年生、4 年生を交互に見ながら授業をやっていく。授業を受けている学年は教師が直接指導を行いますが、一方の学年は自主的に学習を進めていくといったイメージになります。下の写真は、3 年生は直接指導中で、4 年生についてはリーダー学習をしています。リーダー学習というのは、自主的な学習を行う。時にその中に進行役のリーダーを要請することもあるのだろうと思いますが、直接指導とそうではない学年が一つの教室の中にいるといったのが、複式学級の説明になります。 以上で説明を終わります。もし、質問があればわかる範囲でというところですが、経験されている先生や、見たり聞いたり今までされた中で、補足説明等していただければよりイメージしやすくなると思います。よろしくお願いいたします。
委員長	質問があればお願いいたします。複式学級、編制等につきましては、総務部会の方で具体的な議論が交わされると思います。 意見がないようですので、以上で第 7 回統合準備委員会を閉会したいと思います。

第７回　甲田地区小学校統合準備委員会次第

日時　平成 27 年 1 月 13 日（火）　18 時 30 分～
場所　甲田支所　2 階会議室

１.開　　会

２.報告事項

（１）総務部会報告：「統合目標年月日について」

３.協議事項

（１）統合目標年月日について
（２）その他

４.事務連絡

・次回開催予定　　平成 27 年　　月　　日（　　）

５．閉　　会